

## 第27話 水無月：「考え、議論する道徳」

来年度から、これまでの「道徳の時間」が、「特別の教科 道徳（道徳科）」と改められることとなります。本校では、昨年度、海田町の授業力向上研修で「考え、議論する道徳」について、授業提案を行ったことをきっかけに、問題解決的な道徳の時間の授業研究を行ってまいりました。

今年度、2年2組の加川教諭が、「森のしたてやさん」という資料で授業を行いました。ウサギの仕立て屋が注文を受けた「最初に来たサル」「意地悪なキツネ」「仲よしのクマ」という3者に対して、洋服をつくる順番を考えるというお話です。先着優先のルールはあるものの、それぞれの事情を考えることで、児童一人一人が自分のこととして問題の解決策を話し合い、「公平、公正」に行動することの大切さについて考えました。

まず、授業の冒頭で、トイレに並んでいるイラストを提示し、トイレを使うためには、順番（先着順）が



あることを理解させました。そこへ、今にもおもらししそうな人が来たとき、どうしますかと尋ねて、子どもたちの心を揺さぶってから、資料「森のしたてやさん」と出会わせました。ここで、「公平・公正」という道徳的な価値と、困っている人を助けようとする「思いやり」という価値をもたせることができました。

次に、児童一人一人がワークシートを使って、自分が仕立て屋であるウサギの立場なら、「最初に来たサル」「意地悪なキツネ」「仲よしのクマ」という、

ウサギとの関係が異なる三者の依頼に対して、だれの服を先に作ったらよいかを考えることを通して、自分事としてとらえ、今までの自分の経験や考え方を思い出し、自分自身を見つめることができました。子どもたちは、

最後に、日常的な場面で、先着順だけでは考えられない状況として、「バスや電車で座っていて、お年寄りが乗ってきた場面」を提示して、価値の一般化を考えました。今後出会うであろうさまざまな場面において、道徳的な価値に基づいて適切な行動を選択して、行動できるようにするために、「考え、議論する」道徳について、研究を進めてまいりたいと思います。

